第69回 全国高校演劇大会 (鹿児島) 舞台技術創造講習 報告

2023年8月12日

2023年7月28日～8月1日に、鹿児島市内の川商ホール2にて 『第69回全国高等学校演劇大会』(主催:全国高等学校演劇協議会)が開催され、その一環として「**舞台技術創造講習**」が行なわれました。昨年はコロナ禍後に初めて少数ながら生徒参加の形で復活し、今年は通常通りの講習会を開催する事ができました。 7月28日から5日間にわたって行なわれたその講習会の様子をレポートを致します。

【講師】

■ 土屋 茂昭　（日本舞台美術家協会）　■ 土岐 研一　（同左）
■ 吉木　均　（日本舞台監督協会）　■ 乳原 一美　（日本照明家協会）
■ 藤田 赤目　（日本舞台音響家協会）　■ 今井 春日　（同左）
■ 金井大道具　（背景）馬場さん、吉井さん　(監修)中村 知子
■ 中島　憲　（演出担当顧問）　■上田 美和　（脚本担当顧問）
■ 小池 れい　（本大会審査員・講師）

【会場】 川商ホール　第２ホール

【日程】 7月28日～8月1日　仕込み&講習会準備
8月1日　13:10～15:10　舞台技術講習会本番

【作品】 『*SEE YOU TOMORROW*』上田 美和 作
短縮版テキレジ・演出：　中島　憲

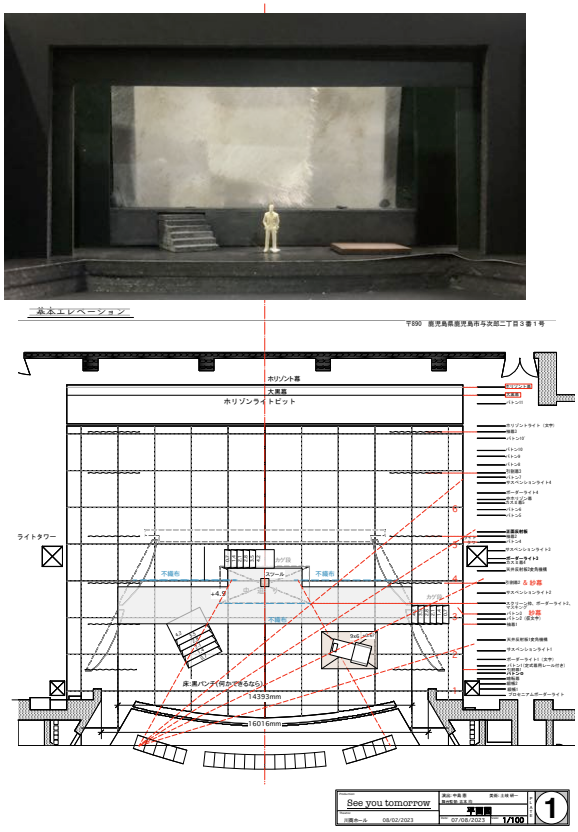
【詳細日程】

日	時間	講師	内容	
7/28	10～13時 14～18時	土屋・土岐・吉木 乳原・藤田・今井	・美術プランの説明と仕込み説明　・装置作業 ・照明・音響仕込み準備	参加生徒： 約20名
7/29	10～12時 13～17時 16～18時	乳原・土岐・吉木 藤田・今井 中村・馬場・吉井 全員	・タッパ合わせ ・音響仕込み・音チェック ・金井大道具の背景講座・実習(搬入口にて) ・仕込み 作業 & 照明・音響作業	同上
7/30	16～18時	全員	・再仕込み　・明かり作り　音響チェック	
7/31	16～18時	全員	・再仕込み　・場当たり稽古	
8/1	11～12時 12:50	全員	・通し稽古 x2 ・客入れ	
	13:10 15:10 15:30	土屋 中島 上田 全プランナー	1.講習会趣旨説明 2.講師紹介 3.素バージョン(照明・音響なし)　上演 4.完成バージョン　上演 5.出演者紹介 6.台本解説 7.各プラン　解説 8.座談会・質疑応答 (審査員 小池氏合流) 9.バックステージ　案内 10.バラシ	

【美術プラン】

前回同様、講習で実地する「生徒たちが作業をして製作したもの」を実際の舞台上の装置にするという事も考慮に入れてのデザイン。「神風特攻隊」が多く出発した知覧が鹿児島県に位置していることから特攻隊員を題材にした物語になりました。

ゼロ戦が飛ぶ大空を舞台上に表すため、廉価で入手・加工しやすい不織布を使用しています。さらに操縦士と地上で見上げる人々の芝居との差異をつけるために高台をすぐ奥に配置。この高台は舞台いっぱいに拡がる水平線を表すため上手端から下手端まで続いています。



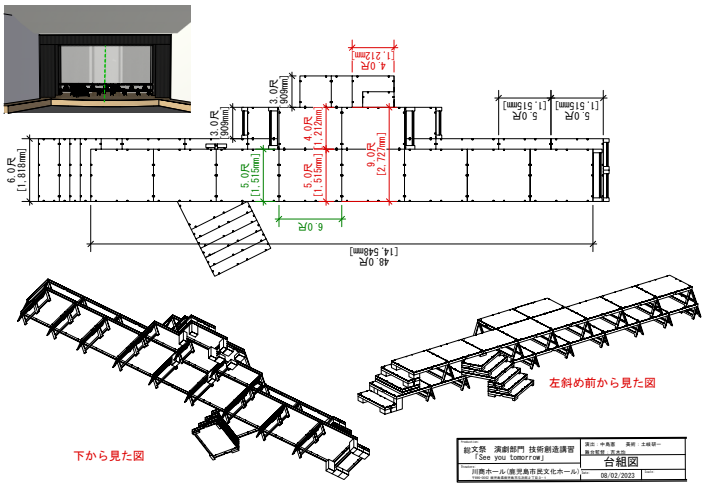
エレベーションと平面図

各場エレベーション

【仕込み用資料】

劇場備品の平台・木脚・箱馬をかなり使用しての大掛かりな高台組。

吉木氏による詳細な図面がとても効果的で,細かくバミリをして、毎日の再仕込みのために備えました。



高台の図面　（理解しやすいアイソメトリック図など使用）

【講習の様子】

約20名もの熱心な生徒たちが参加してくれました。

土屋氏による講習会の説明

土岐氏による美術プランの説明

不織布の作業

高台組を作業中の生徒たちを見守る吉木氏

生徒たちの質問に答える土屋氏

金井大道具　馬場氏・吉井氏・中村氏による背景講習

【舞台写真】

約200名もの来場者が会場を訪れました。

座談会

バックステージ・ツアー

記念の集合写真

【各プランと講習のポイント】

・美術　＆　舞台

特攻隊員が飛ぶ大空(と雲)をイメージした3パーツに分かれた不織布の幕を着想。特に照明による紗効果やレイヤー効果を狙いアトリエでの実験や打合せを重ねた上で使用したことを説明。

高台の高さと拡がりの意図を説明した後、仕込み途中に高台デザインの変更が提案され、話し合いの結果、変更案で行くことになった事はとても贅沢で有意義な出来事であったと回想。

また高台の複数回の仕込みに対して、わかりやすい図面による準備と丁寧な説明により、2回目以降はトラブルなく、スムーズに進行。参加生徒の熱意と実行力を重要な要因として挙げる。

・照明

装置の用意した不織布の紗幕をどう利用して活かすか？がメインポイント。雲のネタを試行錯誤を繰り返して効果的に演出。

使用したすべての機材から1つずつ明かりを出して、その機材の意図を実践しながら解説。そして、1場面ずつの総合的な明かりを見せつつ、どのような効果を全体の絵として狙ったかを説明。

劇場にあった現在では入手困難なプロペラ効果の機材があり、ゼロ戦が飛ぶ場面で効果的に使用。

全ての作業を生徒と共にこなして、オペも生徒が担当。重要な点を押さえながら生徒が学んでいく様を実感できた。

・音響

島という設定の場所を表す波音の2重構造やスピーカーの設置位置に関して、各々の音を個々のスピーカーから出しながらの講義。そして空駆けるゼロ戦の音を機体の旋回する軌道を説明しながら、どうスピーカーからスピーカーへと音を繋げていったかを音出ししながら解説。最後に実はゼロ戦の音はイギリスの戦闘機の音であることを自ら暴露。

こちらも少数の生徒たちと共に全作業を完遂。同じ生徒たちが担当として付いていたため、非常に段階的に教えやすかったとの感想。

【全体評】

会場が通常よりやや大きく感じられたものの、ゼロ戦駆ける大空を表すには美術・照明・音響とすべての部門で効果的だったと思われます。

今回は前回に始まった「高校生参加者が自ら製作加工して塗装した素材が、実際の舞台で使用する」ことに再度チャレンジしました。学ぶということにおいて、生徒たちが「**実際にそれらの素材が舞台上でどう見えるか？**」を目にすることは大変有意義で理にかなったものであるのは明らかで、この方法は今後も継続予定です。

各講師(プランナー)による指導や講義に対しての熱心な態度と自ら学ぼうとする積極性は素晴らしかったです。特に高台の仕込みにおいては尋常ではない数の平台・箱馬・木脚が複雑に組み合わさっていましたが、舞台監督吉木氏の丁寧な指導の下、2回目の仕込みには半分以下の時間で仕込み・バラシを遂行するに至るなど生徒たちの吸収力の早さと実行力に大変驚かされました。